

# 2021 年度事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

## 1. 庶務関係

(1) 会員数の状況(令和4年3月31日現在) ( ) 内前年同期増減

ブロック	正会員	学生会員	総数
東北・北海道	109 (+3)	4 (±0)	113 (+3)
関 東	447 (+4)	37 (+8)	484 (+12)
東 海・北 陸	130 (-4)	4 (+1)	134 (-3)
近 畿	230 (-3)	26 (+5)	256 (+2)
中 国・四 国	122 (-6)	11 (+2)	133 (-4)
九 州	99 (-9)	0 (-2)	99 (-11)
海 外	4 (-2)	0 (±0)	4 (-2)
計	1141 (-17)	82 (+14)	1223 (-3)

団体会員 159 団体、賛助会員 45 団体、顧問 3 名

(2) 代議員総会の開催

令和3年6月6日(日)新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoom ミーティングを利用し、オンラインにて開催した。決議事項の投票は Google フォームで行った。

(3) 年次大会の開催

令和3年9月7日(火)、8日(水) 関東支部担当で開催した。当初は、新型コロナウイルス感染が収束に向かうと予想して、実践女子大学での口頭発表をオンラインで送信するハイブリッド方式での開催を計画したが、新型コロナウイルス感染状況が改善せず、感染拡大防止のため全面オンライン方式で開催した。

(4) 一般社団法人日本調理科学会創立 50 周年記念出版事業の継続実施

創立 50 周年記念出版事業として、記念出版委員会を中心に、全国約 350 名の会員が引き続きシリーズ別冊うかたま「伝え継ぐ 日本の家庭料理」の出版に取り組み、最後の 2 冊、第 15 回配本(7月1日発行)及び 16 回配本(9月1日発行)をもって刊行を終了した。愛蔵版全 16 冊も 12 月 10 日で発行を終えた。また、家庭料理研究委員会とともに学会 HP 上に家庭料理 Web サイトを開設した。本事業は 2022 年度まで継続し、出版社の行うデータベース事業にも関わっていく予定である。

(5) 研究の奨励及び研究業績等の表彰

学会賞 1 名、奨励賞 1 名、功労賞 4 名の表彰を年次大会で行った。また大会において若手研究者発表奨励賞の投票を行い 3 名の表彰を行った。

(6) 会議の開催

① 理事会	3 回	② 編集委員会	5 回
③ 学会賞選考委員会	2 回	④ 刊行委員会	3 回
⑤ 選挙管理委員会	4 回		

## 2. 企画・広報関係

(1) 年次大会、講演会、研究会企画を中心とした活動を行った。

(2) 6月6日(日)、講演会を Zoom ウェビナーにて開催した。「コロナ禍におけるホームフリージングと調理の科学」をテーマとして鈴木徹氏(東京海洋大学先端科学技術センターサラダサイエンス寄附講座特任教授)に、並びに 2020 年度日本調理科学会学会賞受賞講演「食品の調理過程における嗜好性および健康増進機能の変化に関する研究」を高村仁知氏(奈良女子大学生活環境学部教授)にご講演いただいた。また、講演会に先立って、新企画についての説明も行った。

(3) 新企画の発足に向け、アンケート(メールニュース利用)を実施し、その後準備会議、ワーキンググループ会議等を経て、テーマを「多様な調理法と家庭料理の伝承」と設定し、2022~24 年度の特別研究として理事会に提案し、承認された。現在、各支部から責任者・副責任者を選出していただき、調査及び実験の運営委員として活動していただいている。今後、学会誌等で呼びかけて多くの会員の参加を募り、調査チームと実験チームに分かれて取り組むこととした。

## 3. 常置委員会関係

(1) 編集委員会 『日本調理科学会誌』の発行 年 6 回発行 A4 判

第54巻 第2号 1,600部、第3号 1,600部、第4号 1,600部、第5号 1,600部、第6号 1,600部  
第55巻 第1号 1,600部

### 編集・刊行

#### ① 論文投稿状況（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

報文 18編、ノート・資料 7編、クッキングルーム 1編 計 26編

#### ② 論文審査状況

区分	掲載済	印刷待ち	著者取り下げ	却下	審査・訂正中	計
2019年度投稿	29	0	3	9	0	41
2020年度投稿	22	2	3	7	0	34
2021年度投稿	4	6	5	3	8	26

#### ③ 学会誌 54巻 2～6号及び 55巻 1号掲載発行状況

区分	2号	3号	4号	5号	6号	1号	合計
報文	0	1	0	2	1	1	5
ノート・資料	2	2	2	1	0	3	10
総説	0	1	1	1	1	0	4
講座	1	1	1	1	1	1	6
教材研究	1	1	1	1	1	1	6
クッキングルーム	1	1	1	1	1	1	6
トピックス&オピニオン	1	1	1	1	1	1	6
新刊紹介	0	0	1	1	2	4	8
ページ数	52	44	40	50	32	56	274

④ 学会誌は発行後2週間以内に電子版をJ-STAGEにて公開した。

⑤ 投稿規定等の見直しを行った。

#### (2) 情報管理委員会

① 事務局と協力しホームページ等の管理、運用を行った。

② 2021年度大会演題登録はアトラス社の Confit Submission を利用して行った。

③ メール・ニュースを4月1日号より3月30日号まで計24回(jscsnews:57～81)発行した。メール・ニュース用のアドレス更新を4回4月、6月、9月、1月に行った。

④ 転載申請に対し許諾の判断を行った。場合により学術著作権協会への申請を依頼した。

#### 4. 渉外関係

(1) 日本学術会議協力学術団体として生活科学系コンソーシアムの活動を行った。

(2) 下記の関連学協会等と事業の共催、協賛、情報交換を行った。

(一社)日本家政学会、日本家庭科教育学会、日本食生活学会、(一社)日本官能評価学会、日本熱物性学会、日本高圧力学会、(公社)日本食品科学工学会、(一社)和食文化国民会議、(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団、(公財)塩事業センター、(公財)不二たん白質研究振興財団、(一社)日本レオロジー学会、(特非)うま味インフォメーションセンター、日本食品・機械研究会、日本熱測定学会、(公社)日本冷凍空調学会、(公財)ソルト・サイエンス研究財団、その他の学協会等

#### 5. 研究委員会関係

(1) 災害時メニュー開発に関する研究委員会は、2021年度大会において認定NPO法人キャンパーとともに大会実行委員会の協力のもと、デモ調理を行う計画をたてたが、コロナ禍のため実施を見送った。

(2) 次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究委員会は、2021年度大会にて「行事食」をテーマにeポスター発表(参加46都道府県)及び情報交換会・勉強会・検討会を行った。2018年「主菜」、2019年「副菜」のポスターデータをCDに収録し、10月末に配布を終えた。また記念出版委員会と協力し、学会HP上に家庭料理Webサイトを開設し、公開した。

#### 6. 特別委員会関係

刊行委員会は、創立40周年記念事業であるクックリーサイエンスシリーズの原稿提出期限を2025年度末と設定する旨、昨年学会誌53巻5号にて報告したが、定期的に刊行することを条件に、調理科学研究の情報発信の場として、また調理科学を広く紹介する目的で、事業は継続すると改めた。同時に投稿しやすいよう執筆条件を変更し、学会誌54巻3号にて訂正報告した。